

郡報

第五拾壹號

大正九年十一月三十日

利根郡

告示 通牒

利根郡告示第二三號

郡工事執行規程左ノ通定ム

大正九年八月二十四日

利根郡長 野 中 富 三 郎

郡工事執行規程

第一條 郡費支辨ニ屬スル工事ノ執行ハ本規程ニ

依ル

第二條 明治四拾年縣令第二十號縣工事執行規程

ハ第二條第三條ヲ除クノ外郡費支辨ニ屬スル

工事ノ執行ニ之ヲ準用ス

附 則

本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三第一二五二號

大正九年十月十一日 利 根 郡 長

各 小 學 校 長 殿

小學校長宮城並京都御所拜觀方

出願ノ件ニ付通達

小學校長ニ於テ標記ノ件出願ノ向ニ對シテハ

特ニ許可相成候ニ付自今希望者ハ左記ニ依リ

文部大臣宛出願スヘキ旨其ノ筋ヨリ通牒越候

條了知セラルヘシ

記

一、拜觀願ハ拜觀希望ノ日ヨリ二十五日前ニ當廳

ニ到達スル様提出セシムルコト

二、宮城並ニ京都御所拜觀ハ縣郡市ノ區域ニヨリ可成一團ノ員數纏メテ出願ノコト

三、團体ニハ一人代表者ヲ定メ着京ノ上ハ直ニ文部省秘書課ニ届出ツルコト

四、出願書ニハ拜觀者並ニ引率者ノ官職氏名表三通ヲ添付スヘキコト

五、拜觀希望ノ日時ハ何日ヨリ何日迄ノ間トシテ出願書ヘ記載スヘキコト

六、服装ハ「フロックコート」「シルクハット」又ハ黒丸形帽子ヲ着用ノコト

但シ服制アル向ハ該服制ニ依ルモ差支ナシ履物ハ黒皮靴又ハ草履(女子)ニ限ルヘキコト但シ雨天ノ節女子ハ小間下駄ニテ差支ナシ

本年四月二十六日七日二日間郡内各町村區長會議ノ際大芝知事親シク臨場セラレ懇切ナル訓示アリ左ニ之ヲ掲載ス記事ハ閣下ノ校閱ヲ經ス文責素ヨリ策記者ニアリ

知 示 訓 示

郡長ガ郡民ト一致融和シテ居ル美風ガアルト云フコトヲ感シテ居リマシタ今回再ビ本縣ニ來テ見マスレバ七年前ト比ベテ今日ハ郡諸般ノ施設ニ於テ向上シテ居ルノハ非常ニ感慨ノ深イコトデアリマス此ノ間郡長ガ三代替テ居ルト思ヒマスガ代々ノ郡長ガ皆治績ヲ擧ゲテ居リマス之ハ郡民ニ美風ガアツテ官民歩調ヲ揃ヘルト云フ結果デアルト思ヒマス

自分ガ本郡ヲ知テ茲ニ十年代々ノ郡長カ手腕家デアアル故ニ此ノ郡ヲ仕上タ人ハ皆發展シテ居リマス其ノ結果ハ郡民ガ非常ナル便利ヲ得テ居ルコト、思ヒマス郡ノ成績ヲ擧グルノハイクラ郡長一人ガ人物ガヨクモ腕ガ良クモ郡會議員町村長區長等ガ郡長ノ趣旨ヲ部民ニ徹底セシメナケレバ出來ナイノデアリマス此ノ点ニ於テ本郡ハ地ノ僻陬ニ引換テ誠ニ喜バシイ處デアリマス今ノ郡長ガ任ニ就カレテ未ダ澤山ノ年月ハ經ナイガ種々ノ新事業ガ施設サレタ様デアリマスカラ將來益々郡民ト一致協力シテ一層本郡ノ美風ヲ發揮シテモラヒタイト思ヒマス

本日ハ利根郡第二回區長會議デアルカラ臨席シテクレトノ郡長ノ申請ニ依テ來々次第デアリマス只今參リマシテ様子ヲ聞テ自分ノ豫想以上ノ盛況デアルコトヲ知リマシタ此處ニ作日以來協議シ研究サレタ事項ガ有リマスガ是ヲ見マスト内容ガヨク時機ニ適シタ自治制ニ最モ重要ナ事項デアリマスカラ如何ニ本郡發展開發ノ上ニ爲ニナルコト、思ヒマス

ソレデ本日出張シテ來テ狀況ヲ見マスト出席者殆ンド百四十人ノ區長ガ缺席ナシト云フ熱心ノ程度デ之レカラ推シテモ利根郡ノ狀況ガ知レルト思ヒマス一体區長會議ハ非常ニ必要ナコトデアアルニモ不拘マダ本縣下ニ於テコノ施設ガ一ツモ無いノデアリマス否全國ニ於テモ其ノ例ヲミナイノデアアルニ本郡ニ於テハ昨年カラ二回迄開催セラレタノハ非常ニ喜ビトスル處デアリマス

扱諸君モ御承知ノ通り自分ハ七年前本縣ニ在職シタコトガアリマスガ其ノ頃カラ本郡ハ縣下ノ北部ニ位シ交通ハ不便氣候ハ寒イ僻遠ノ地デ總テニ於テ天惠ノ薄イニモ不拘非常ニ美点ノ多イ郡デ殊ニ

ソレデ今日ハ如何ナル風ニ集テ居ルカ如何ナル風ニ會議ガ遂行サレテ居ルカ郡民ノ美風ヲ見ニ出テ來タ様ナ譯デアリマス

ソコデ今日ハ區長會議デアリマスカラ區長ノ町村ニ於ケル立場ニ關シテ一言申上テ置キタイト思ヒマス區長ハ御承知ノ通り自治体ノ最下級ノ機關デアリマス一口ニ最下級ト云ヘバ地位ガ低イ様ニ思ヒ地位ガ低クケレバ一面職務ガ重クナイ様ニ思ハレルガ果シテ重クナイデアロウカ各自此ノ点ニ就テ考ヘテ貰ヒタイノデアリマス

町村自治ノ發展上區長ホド大切ナ且職ノ重イモノハナイト自分ハ思ヒマス自治制カ施行サレテ三十年ニナリマスガドウモ其ノ進步ハ著シクアリマセン元來日本ノ自治制ハ自發的ノモノデナク上カラ法ニヨツテ行動ヲ強イラレタモノデアアルガ兎ニ角其ノ進步ハ遲々トシテ居ルノデアリマス此ノ自治制ヲ發達セシムルニハ町村長ダケデハ出來ナイノデアリマス其原因ハイクラモアルガ區長ガ町村長ノ補助機關トナツテ種々ノ事項ヲ十分部民ニ周知セシメ部民ノ意見ハ上ニ達シテ行クト云フコト

爲サナケレバナラズ諸君ハ此点ヲ十分理解シナケレバナリマセン、ソレニハ如何ニスレバ良イカ其ノ点ガ解ラナケレバナリマセン此ノ点ニ於テ區長會議ハ最モ適當ナコトデアルト思ヒマス區長タル職ニアル者ガ縣及郡ノ施設及豫算又ハ自分ノ町村デ何ヲヤツテ居ルカ知ラナイ様デハナリマセン斯ノ如キコトハ町村民トシテモ總テ知ラナケレバナラナイノデアリマス知ラナイ様デ自治ガ發達スル筈ガアリマセン之ヲ一般ニ徹底セシメレバ始メテ意見モ起ル之レヲ上ニ通ズレバ此處ニ於テ上下ノ意志ガ相通シテ始メテ自治ガ發達スルノデアルソレニハ區長ト云フ立場ノ人ガ下ニ總ベテヲ知ラシメナケレバナリマセン、デアルカラ會議デ研究サレタ事項モ自分デ了解サレタバカリデナク歸ラレタラ此レヲ部民ニ徹底シテ貰ヒタイノデス之ガ集リ集ツテ郡町村ニ適合スル行政ガ出來ルノデアル其處デ一步進ンデ自治ニ就テ概念ヲ養フ上ニ簡短ニ一言申上ゲテ置キタイト思ヒマス

自治ハサキニモ申上ゲマシタ通り既ニ諸君モ御承知ノコト、ハ思フガ實際ニハ行ハレテ居ナイノガ

方依頼心ノ方カラ云フト各種ノ方面カラ要求ヲシテクル自分デ出來ルコトヲ他ニ依頼スルト云フコトハ出來ナイノデアル自治体ノ活動及計畫ヲスル場合ハ可成獨立獨行シテ行クト云フコトガ大切デアアルガ他ニ依頼シテ事ヲ成サントスル風ガアル近來此風ガ少ナクナツテ來マシタガ未ダ往々アル様デス區長會議等ガ實蹟ヲ舉ゲ自治ノ精神ガ徹底スルノニ伴ツテ追々少ナクナルコト、思ヒマス自分ハ之レヲ一日モ早カレト希望シテ居ル次第デアリマス又コノ自治タルモノヲ學理的ニ行ツテイツタラ面白ヒ活動ガ出來ルコト、思フガコノ事ニ就テハ藤野學士ガヨク理解的ニ話スコトニナツテ居リマスガ之ハ相當ニ細イ處迄及ブコト、思ヒマスカラ諸君ニ於テモヨク頭ニ入レテ部民一般ニ徹底セテレンコトヲ望ムノデアリマス

諸君ハ種々其ノ頭ヲ養フ機會ニ遭遇スルコトガ多イノデアリマスカテ斯様ノ場合ニ充分研究シタコトハ一般ニ徹底セシメ一面ニハ之ヲ實行セシムルコトニ努メラレンコトヲ望ム次第デアリマス此ノ点ニ於テ利根郡ヲ推獎シタイノデス又昨年來ヤツ

多イ様デアル或ハ了解シテ居テモ行ハナイノカ又ハ解ツタト云フガ實際ハホントウニ解テ居ナイノカ兎ニ角實行サレテ居ナイノハ事實ノ様デアリマ

ス

自治トハ一口ニ申セバ自分ノコトハ自分デ治メルト云フコトデ人ノ世話ニナラナイト云フコトデアアルガ然ラバ自分ノコトハ何デモ自分デ勝手ニスルト云フノハ誤リデアアルガ斯様ニ考ヘテ居ルモノモアル様デアアル又一方ノ極端ノ例ヲ申シマスト口ニハ自治ト主張シナガラサア實際ニ當ルト他人ニ依頼スルト云フ者モアル此レハ何レモ極端ノ例デスガ然ラバ自治ハ如何ニスレバ良イカト云ヒマスレバ此兩極端ノ中庸ヲトツテ進ムコトデアアル社會生活ノ爲メノ自治デアアルカラ甲村乙村モ何レモ自治体デアアルカラ勝手ノコトデハダメデアアル社會的生活ト云フコトハ其ノ間ニ衝突ノナイコトガ大切デアアル然シ時トシテ如何ニシテモ融和ノ出來ナイ事ガ生ズル場合ガアリマス此ハ利害關係モアリ感情ニ因ル場合モアリマセウ斯ル場合ニハ之ヲ監督スル監督權ナルモノモ必要ニナルノデアリマス又一

テ居リマス民力涵養デスガ之レモ本郡ハ進ンデ居リマス指導者ノヨロシヒ点モアリマセウカ郡民ガ實行力ニ富ンデ居ルコト、思ヒマス此ノ点ヲ尙一層諸君ノ力ヲ以テシタナラバヨリ以上ノ發達ガ出來ナイコトハナイト思ヒマス此ノ意味ニ於テ本郡トシテ考イツイタコトヲ一言述ベテ諸君ノ精勵ト努力トヲ望ムデ爰ニ申上ゲタ次第デアリマス

利根郡徵募區検査成績概要

一、本徵募區ニ於ケル検査實員ハ六〇三名ニシテ前年度ノ六一一名ニ對シ八名ノ減員ヲ示セリ然シテ本籍者ノ成績ヲ前年ニ比スレハ左ノ如シ
イ 身長ノ比較

區分	本郡		検査人員	全百分比		五尺以上百分比		五尺以下百分比	
	前年	本年		前年	本年	前年	本年	前年	本年
本郡	六〇三	六〇三	五尺三寸以上	二〇三	三三、三	五尺以上	三〇	五尺以下	七
群馬縣	九二八三	九二八三	五尺三寸以上	二、五〇〇	二六、九	五尺以上	五、三〇	五尺以下	一、五三
本郡	六〇三	六〇三	全百分比	二〇三	三三、三	五尺以上	三〇	五尺以下	七
群馬縣	九二八三	九二八三	全百分比	二、五〇〇	二六、九	五尺以上	五、三〇	五尺以下	一、五三
本郡	六〇三	六〇三	乙第一種	九	一、四	乙第二種	一五	二、五	一八
群馬縣	九二八三	九二八三	乙第一種	三二	三、三	乙第二種	一四	一、五	一六
本郡	六〇三	六〇三	丙種	二	〇、三	以下種	一	〇、一	一
群馬縣	九二八三	九二八三	丙種	六	〇、六	以下種	四	〇、四	四

大正九年度町村別徵兵合格者調査表

町村名	區分	検査人員	合格者		百分比		計	丙以下人員	列次
			甲	乙	甲	乙			
糸之瀬村	分	二〇三	一三	四三	一三、六	一八、二	六六、〇	八	三
利南村	分	二七	七	四六	二五、〇	三三、四	八、〇	六	七
沼田町	町	六五	一八	六九	二七、〇	三三、三	六六、二	三	四
赤城根村	分	二二	九	一五	四〇、九	六八、七	八、五	三	三
新治村	分	四六	一六	六八	三四、八	四一、一	七六、九	一〇	一
桃野村	分	三三	一	二七	三、〇	八、一	八〇、六	九	六
古馬牧村	分	四〇	二	五四	五、〇	一三、五	六五、〇	四	六
川場村	分	三六	九	四一	二四、七	三三、三	八三、三	一	六
池田村	分	四三	四	三二	九、三	二〇、九	八〇、〇	五	八
薄根村	分	二九	六	二四	二〇、〇	三〇、〇	六八、九	一	三
平均身長			五、一七八		五、一九九		大正八年ニ於ケル群馬縣ノ平均	身長	五、一七
平均体重			一三、五六一		一三、六二六			体重	一三、三九六

備考	計	水上村	片品村	久呂保村	川田村	東村	白澤村	薄根村	池田村	川場村	古馬村	桃野村	新治村	區分	
														前年度	本年度
各町村共寄留者ヲ除外シ疑似症ハ百分比中ヨリ控除セリ	前年度	六〇	四三	四七	三三	三六	三六	三〇	二五	三五	四〇	三三	三七	七三	四
	本年度	六七	四四	四七	四三	六六	三六	三〇	二九	四三	四〇	三三	三三	四三	四
	ト	二一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
	ラ	一〇	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
	ホ	四七	三三	四七	三三	六六	三六	三〇	二九	四三	四〇	三三	三三	四三	四
	ニ	三七	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
	ム	三九	三三	三三	三三	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七
	一	八七	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
	計	三九	三三	三三	三三	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七
	百分比	九、六七	三、三三	六、八八	八、五二	二〇、五九	一〇、三三	一〇、三三	一〇、三三	一〇、三三	一〇、三三	一〇、三三	一〇、三三	一〇、三三	一〇、三三
	梅毒	三五	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
	花柳	七八	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
	計	一〇三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
	百分比	一、六四	二、二七	四、二六	二、二七	二、二七	二、二七	三、四五	三、三五	二、三三	二、八六	二、三三	二、三三	二、三三	二、三三

備考	計	水上村	片品村	久呂保村	川田村	東村	白澤村	區分		ト	ラ	ホ	一	ム	花柳	梅毒	横痃	瘰癧	計	百分比	
								前年度	本年度												
大正九年度町村別「トラホーム」花柳病患者者表	前年度	六二	四三	四三	三三	三三	三三	二六	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	
	本年度	六三	四四	四七	三三	三三	三三	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	
	ト	一七	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	
	ラ	五五	三七	七八	三五	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	
	ホ	二〇	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	
	ニ	四三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
	ム	二八	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九
	一	四三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
	計	九〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
	百分比	一、六四	一、五九	一、七〇	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九
	梅毒	三五	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
	花柳	七八	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
	計	一七六	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
	百分比	二、九四	二、六七	三、七〇	二、六七	二、六七	二、六七	二、六七	二、六七	二、六七	二、六七	二、六七	二、六七	二、六七	二、六七	二、六七	二、六七	二、六七	二、六七	二、六七	二、六七

利根郡聯合青年會第三回幹部講習會概況

聯合青年會ノ主要行事タル幹部講習會ハ會員五十四名ノ多數ニ上リ赤城根村大字根利字砥澤ニ開催シ東村小學校砥澤分教場ノ教室ヲ講堂並ニ會員ノ寢室ニ足尾古河鑛業所砥澤出張所ノ俱樂部ヲ演武塲並ニ食堂ニ充テ十月四日ヨリ九日マデ六日間朝五時起床夜九時就寝マデ毎日朝ノ行事(禊、禮拜君カ代、勅語詔書奉讀、体操、青年歌等)講話、體育、會員懇談等凡ソ例年ノ通り舉行セラレタリ講話ハ縣屬藤野法學士ヨリ別項記載ノ如キ凱切ナル講話アリ吉永縣指導員ハ青年會ノ現狀ノ題下ニ青年ノ心得ヨリ青年會トシテ最モ適切ナル施設事項ニ就テ具體的指導ヲナシ野中聯合會長ヨリ青年會ノ使命ヲ懇切ニ説述シ特ニ愛國的精神ニ依ル活動ヲ諭示シ藤井利根實業學校長ハ農村振興方法ノ實例ヲ引用シテ有益ナル講話ヲナシ野木村沼田署長ハ警察ト風教トノ關係ヨリ風教問題ノ法的說話ヲ試ミ高井郡視學ハ最モ卑近ナル格言詩歌等ニ依リ極テ趣味アル教訓ト娛樂トヲ與ヘ鈴木指導員ハ國民道德ト青年ノ題下ニ道德ノ根原ヨリ吾國民道

徳ノ特色及青年ニ期待スル幾多ノ事項ニ就テ講話スル所アリ體育ニ就テハ武道ハ柔道大河原佐太郎氏劍道高橋權十中澤忠右衛門中村六三郎氏運動競技ハ薄根小學校熊澤訓導懇切指導ノ勞ヲトラレ尙敬神尊祖ノ講話並ニ禮拜實習ニ對シテハ東村高橋神職迦葉山高橋禪師ノ勞ヲトラル、アリ參會者ノ如キモ土地僻遠ナルニ拘ハラヌ多數ノ登山アリ會員何レモ大ナル刺戟ヲ受ケ規律整然元氣旺盛頗ル盛會裡ニ閉會ヲ告ケタリ

自治

群馬縣屬 藤野法學士

第四日午後一時

今ヤ世界混亂ノトキ國家トシテ何ガ最モ必要カ何ニタヨルベキカ青年ナリ、青年ニ望シタイ事ガアル

抑モ青年團又ハ青年會ト云フモノハ日本ガ始メナノデアリマス而シテ國家ノ隆替ハ一ニ青年ニカ、ツテキルノデアリマス獨逸ガナゼアノヤウニ強大ニナツタカト云フト一ニ青年ノ力デアリマスシカシ獨逸ノ青年團ト云フモノ、起源ハ「デヤゴルト」將軍ガ日露戰爭後ニ獨逸ノ將校遠ト日本ガ何故ニ戰捷シタカヲ視察ニ來マシタトキ他ノ將校タチハ皆軍事方面バカリ研究シテ行キマシタガ一人「デヤゴルト」將軍ハソノ當時一ノ微々タル佐官デアリマシタガコノ人ハ豪イ人デ軍事方面ヲ離レテ一人目ノ付ケ所ガ人ト違ツテキマシタ、日本ノ戰捷ノ原因ハ青年團ニアルト云フ事ヲ本國ノ獨逸ニ報告シマシタソレデ獨逸ノ青年團ト云フ者ガ成リ立ツタノデアリマスカラ獨逸ノ青年團ト云フモノハ

軍事教育ノ豫備教育デアリマス、シカルニ日本ノハ自然ノ發達ニヨルモノデアツテ獨逸ノ軍事豫備教育トハ全然異ツテキマス又英國ノ青年團トモ云フベキモノニ「ボーイスコット」ト云フモノガアルケレドモコレトテモンノ起源ハト見レバ矢張日本ノ青年團ノ自然ニ發達シテナツタトハ異ツテキ

ル、ボア戰爭ノ時「ヘリゼリー」將軍ガ籠城シテ非常ニ苦戰シタトキニ少年隊ガ偵察シテ非常ニ好果ガアツタノデ將軍ガ非常ニ感ズル所ガアツテ本國ニカヘツテ「ボーイスマット」ヲ作ツタノニ始マツテキルコウ考ヘルト日本青年團ガ一人自然ニ發達シタノデアルコレヲ以テ序論トシテイヨ、自治ノ本論ヲ話ス前ニ自治ノ根本ハ國家ノ現狀ト云フ事ニツイテ考ヘナケレバナリマセン

ソレニハ我が國ガ外國人ノ眼ニ如何ニウツルカト云フコトヲ考ヘテ見マスコトガ必要デス一概ニ外國人ト云ツテモ何ンダカワカリマセンカラ私ハ印度ノ哲學者「タゴール」ノ眼ニウツツタコトヲ見マス、此ノ間日本ヘ來タトキ種々ノ欸持ヲ受ケテ非常ニ満足シマシタガンノ歸ル時ニ一言次ノヤウニ言ヒマシタ「日本ノ進歩ハ皮想ノ進歩デアル」ト次ニ米國ノ「スタール」博士ガ「日本人ハ非常ニウヌボレガ過ギテキルコレガ日本將來ノ發達ノ爲ニ害ガアルダラウ」ト中々味フベキ言葉デハナカラウカ、サテ日本ヲ考ヘルニ第一番ニ産業ニツイテ考ヘナケレバナテナイ産業ノ内デハ第一ニ農業ニ

ツイテ考ヘテ見テバナラナイ、日本ノ農業ハ田畑
五百萬町歩デアツタモノガ大正三年ニハ六百萬町
歩現今デハ六百七十萬町歩ニ増加シテキルコレ
ハ大變ニ立派デアルケレドモ現在ノ人口ニ對シテ
ソノ收穫デハタリナイ農家一軒アタリ一町七八畝
デアアル、英國ハ商工業國ヲ以テ自ラ任ジ食料ハ屬
領地カラ以テ來レバ足リルトシテキタガイザ歐州
戰爭ガ始ツタトキニハ七十日ニ足ル食料シカナカ
ツタ、ソレニ感シテ千九百十六年「ロイドジョー
ジガ」英國自身ニテ生産シタ食料ニテ間ニ合フヤ
ウニスルノヲ以テ第一根本トシタ軍事内閣ヲ立テ
タソレデ今デハ大凡自給自足ニナツタサテ日本ヲ
考ヘルニ領地全体デ一年ノ米收穫ガ六百二十五萬
石本國デ五百二十萬石シカ取レナイシカルニ年々
三十五萬人ヅ、人口ガ増シテ行ク分ダカラ日本ノ
米ダケデハ到底間ニ合ハナイカラ現在農業ニ安ン
ズル事ガ出來ナイ

會社ノ方面ヲ見ルノニ白耳義ハ二萬一千ノ株式ノ
會社デ資本金八十億ナノニ日本ハ大正七年調二萬
ノ株式會社デ資本金三十五億デアリ工業ハ白耳義

力車ヲ引イタラソノ町デ大變ニモメテ非人道的ダ
ト云フテ人力車ハ止シデシマツタ道德ノ方面ハ國
民道德ニハ忠孝カアルガ個人道德尙團體道德ニ至
ツテハ非常ニ遺憾デアル次ニ日本人ノ體軀デアリ
マス私ノコノ倭少ノ體格デ體軀ノコトナドヲ申サ
レマセンガ私ノ少サイノハ母ノ遺傳ニヨルノカ知
レマセンカラソレトシテ簡易保險ノ調査ニヨルト
日本人平均生命ハ四十三才デアリマス又生産年齡
者中ノ死亡率ヲ日本ヲ百トスルト佛五十三英三十
三獨三十二ノ割合ニ過ギマセン、サテ日本人ノ體
區ガコウ劣ツテキテハ非常ニ戰爭ナドノ時ニハ心
細イ

第一回ノ平和會議ガ開カレタノハ今カラ二十四年
前デアアルガソノ平和會議ガアツテカラ十七年タツ
テ又モ今度ノ歐洲戰亂トナツタノデアリマス、戰
争ハ數ガ少ナクナルガ悲惨ハ次第二大キクナル今
ヤ支那ノ山東問題ニツイテモ英米ガ支那ヲ助ケテ
キルラシイコレハ支那ニ於ケル日英米ノ利害ガ相
反シテキルカラデアアル人種平等案モ日米ノ利害ガ
相反シテキルカラデアアル米國カ何改ニ排日ヲシテ

ニハ十八人以上ノ職工ヲ使フ工場ガ五萬アルガ日
本ハ二萬一千白義耳ノ半分ニモ及バナイカラ英、
米、佛、伊トハ到底問題ニナラナイ輸出入額ハ明
治四十年二十五億圓大正七年三十六億圓デアアルケ
レドモコレハ戰爭ノ影響デ長クツバクカ否カハ疑
問デアアルカラ非常ニ心細イノデアリマス

交通ノ方面ハ非常ニ發達シテキル昔ハ道中ガ非常
ニ骨ガ折レタモノデアリマス、能因法師ノ歌ニ
「都ヲバ震ハ共ニ立チシカド秋風ゾ吹ク白河ノ關」
ト云フノヲ以テモ京都カラ白河マデハ歳モ費シタ
ノデアアルガ今ハ二十四時間シカカ、ラナイデ行ケ
ル又道路十二萬五千里デアアルカラモトヨリ大變増
シテキル郵便箱ノ數ハ六萬箇デアアルガ道路ノ割合
ニハ非常ニ少ナイ二里ニ一箇ノ割合デアアルノニ英
國ハ〇、九六哩乃至一哩ニ一箇ノ割合デアアルノダ
ガ割合ニ郵便ハ非常ニ進シテキル次ニ軍事方面ハ
ドウカト見ルト日本現在ノ軍備ハ海軍ガ七十萬噸
陸軍ガ二十三箇師團ハ相當ニ進シテキル、シカル
ニ精神界ハ非常ニ幼稚デ世界の發明ナドハ更ニナ
イ人力車ガアルト云フガ南亞米利加デハ黒人ガ人

居ルカト云フト米國ハ普通選舉デアラカラデアリ
マス、勞働者カ一權ヲ以テ居レバ大富豪モ一權シ
カ持ツテ居ナイ大統領ヲ出スノニハ人數ノ多數ナ
勞働者ノ人氣ヲ取ラナケレバナラナイ、ソレニハ
無智ノモノニモ分ル排日ヲ主張シナケレバ制底當
選ハ覺東カナイカラ排日ヲスルノデアリマス
サテ日本ハ今ヤ五大強國ノ内ニ入ツテヨリマスガ
果シテ五大強國ノ名ニソムカナイカドウカ是非實力
アル五大強國ノ内ニナラナケレバナラナイ、ソレ
ニハ自治體ニ待ツヨリホカニ方法カナイ
サテ國家ノ隆盛ハ舉國一致デアアル日露戰爭ノ原因
ハ自治體カ日本ノ方ガ露國ヨリモ優レテ居タカラ
デアリマス、獨逸ノ隆ニナツタ原因ハ「プロシ
ヤ」ヲ如何ニ經營スベキカト云フコトヲ「フレデ
リツク」大王カ問フタトキ「スタイン」カ自治制ヲ
シクニ限ルト申シタノテ自治制ヲシイタツノ爲ニ
獨逸ノ國カ隆々トシテ起ツタノデアリマス、ソレ
テソノ後普佛戰爭カ始マルト自治制ニヨル普魯西
ハタチマチニシテ提ツテ佛國ヨリアルサスロート
リンゲント五十億フラントヲ取リマシタ

日本ニテハ三十年前カラ自治ヲシイタ、コレヨリ
イヨク本論ノ自治ヲ御話スル

自治トハ選舉サレテ國憲ニ參與スルコトノ出來ル
ノガ外國ノ例デアリマス日本ノハ政体ノ本ニナツ
テ國憲ニ參與スル團體デアアル、如何ナル國家モ警
察國カラ文化國ニナル文化國トナルト仕事ガ非常
ニ多クナル先ツ社會事業ガアル、鐵道ハ國有ニシ
ナケレバナラナイ非常ニ利益ヲ得過ギテキルモノ
ガアレバ暴利取締合ヲ出スヤウニナルソウユウフ
ウニスル仕事ガ非常ニ中央政府ニフエルカラコレ
ヲ地方ニワケテモラウヤウニスル又施設ニシテモ
地方ノモノハ地方デサセル又人民ヲ眞ニ立憲國
民的ニスルニハ是非コノヤウナコトヲサセル必要
ガアル、自治ハ地方共同ノ利益ヲ發達サセ安寧秩
序ヲ求メルタメデアアル自治体ノ組織ト云フモノハ
自治体ノ種類ニヨツテ異ツテキル、縣、郡、市、
町村共ニ自治ノ部分ガアル町村自治體ニハ二方面
アツテ獨立トシテハ國ノ行政區劃トシテノトニツ
アルノデアリマス國稅ヲ徵收スルノハ町村デトツ
テモ町村デナク國ノ行政權デトルノデ町村稅ヲト

ルトスレバソレガ町村ノモノデアアル、自治體ハ土
地ト住民ガアツテ租稅ヲ取り立テルノデアアル
自治體ノ機關トシテ執行機關ト議決機關トガアル
執行機關ニ町村長、議決機關ニ町村會ガアリマス
町村長ノ補助役ニ助役、收入役等色々アリマス
町村長ノ選出ハ町村會デ決メル助役ハ町村長ガ町
村會議ニ推薦スル、規則トシテハ縣當局ニ願フノ
デアリマスガ大体コウ云フウデアリマス、町村
長ハ町村會デ何々ヲシヤツト決メタノヲ行ヒ又町
村會ニ提案モシマス收入役ハ有給吏員デ町村長ガ
決メマス又町村長ノ下ニ區長ガアル、
議決機關ノ町村會議員ハ町村住民ノ代表者デア
ル町村會立憲政治ノ源デアアル

(第二時)

今度ハ自治體ノ行爲ニツイテ御話ヲシマス第一ニ
自治立法ニツイテ申シマス町村會ニテハ條合ヲ定
ムルコトガ出來マス是ハ權利義務ヲ定メルノデア
ル、第二ニ町村ノ財政ノ源ハ何カト云フト先ツ第
一ニ財産ヨリ入り來タル收入デ支辨スベキデアリ
マスソレデ足りナイトキニハ手數料ヲ取り尙不足

(一) 大正六年五月一日現在各種團體貯蓄總計表

郡市別種目	貯蓄團體數	全上貯蓄人員	貯蓄金額	一團體平均貯蓄金額	一平均貯蓄金額
勢多	一八五	一二、〇一八	九一、五三八	四九四・八〇〇	七六一〇
群馬	一七七	一五、〇八八	一三三、五九三	七五四・七八〇	八八五〇
多野	一〇四	一〇、二九四	三五、八一八	三四四・四一〇	三四八〇
北甘樂	一一一	八、八二二	九四、〇六三	七七七・三八〇	一〇六六〇
碓氷	一五九	一三、一三二	一三四、四〇七	八四五・三三〇	一〇二三〇
吾妻	六七	六、五五九	六四、〇〇八	九五五・三六〇	九七六〇
利根	一四三	六、六四九	七七、二二八	五四〇・〇六〇	一一六一〇
佐波	一七〇	一二、五九九	一二五、二一一	七三六・五四〇	九九四〇
新田	八五	五、六六三	六一、〇四九	七一八・二三〇	一〇七八〇
山田	八九	六、七九六	四七、八三〇	五三七・四二〇	七〇四〇
邑樂	八八	五、九五六	四八、七〇八	五五三・五〇〇	八一八〇
前橋	二二三	一、六九七	二二、五二一	九九九・一九〇	一三二七〇

高崎	六	八〇一	九、一四九三五〇	一、五二四八九〇	一一四二〇
管内	一、四一七	一〇六、〇七四	九四五、一三〇三八〇	六六六九九〇	八九一〇

(二) 各郡市別貯蓄團體調勢多郡

團體名	團體數	全上人員	金額			
			郵便局	銀行會社	個人	其他
			預入		先計	
小學校職員	二	三三	五、五二七〇	一、一八四一〇	三、三三〇〇	六、七三九七〇
全兒童	二	五三三	一〇、一〇四三〇	—	—	一〇、一〇四三〇
青年會	二	一九七	九、五〇四〇	二、一六六五七〇	七、三三八〇	一〇、九七四六〇
貯蓄金組合	一	五〇	三、二六七〇	二、九四七七八〇	八、一五五五〇〇	二、七四〇八五〇
養蠶組合	一	二	四五〇〇	—	—	四五〇〇
在鄉軍人分會	一	三五	二、四〇〇〇	—	—	二、四〇〇〇
肥料配合會	二	三	—	三、五〇〇〇	一、九六六〇〇	五、三六六〇〇
報德社	三	一七二	五、〇〇〇〇	一、一三三〇五〇	六、六九四六七〇	七、九七七七二〇

吾妻郡

團體名	團體數	全上人員	金額			
			郵便局	銀行會社	個人	其他
			預入		先計	
小學校職員	三	一四六	二、五二六五〇	—	—	三、五〇八二〇
全上兒童	八	一、二六七	三、五六八九六〇	—	—	三、五六八九六〇
青年會	二	一五六	一、四七五九〇	七、四六六〇	四、四八四八〇	一〇、三九九〇〇
貯蓄金組合	一	五六	二、三六〇〇	三、九四二四〇	三、七七八〇四〇	一〇、三九〇〇〇
納稅組合	一	一〇	一六〇五〇	—	—	一六〇五〇
報德社	四	二二七	三八六二〇	一、三九二四〇	—	二、三九〇五〇
其他團體	二	七〇	九七九〇〇	—	—	九七九〇〇
產業組合	七	九九	—	二六〇〇〇	—	二、四三三二七〇
町村役場吏員	三	二二	三、九六四〇〇	—	—	三、九六四〇〇
計	二六	六五三	二二、七五六七〇	五、四二〇六四〇	四、二二五二〇	二二、四〇二七〇

利根郡

團體名	團體數	金額及預入先					
		全上人員	郵便局	銀行會社	個人	其ノ他聯合會自己組合	
小學校職員	一九	一五八	一八四八〇〇〇	一四八三七〇			三九六四四〇〇
全上兒童	二	五五三	四六〇八〇	一三二一八〇			一六九三九六〇
青年會	二二	一、二四五	三六九三〇	五、一七一五〇	一〇〇〇〇	八四〇〇八〇	六〇〇八二六〇
貯蓄金組合	三九	一、五三八	一、四〇五、〇〇〇	三、九四四、〇〇〇	二、九〇〇〇	五、二七六、三〇〇	二〇、八二四、八〇〇
納稅組合	一	四七〇	九三〇〇				九三〇〇〇
養蠶組合	一	二二		一、〇〇〇〇			一、〇〇〇〇
在郷軍人分會	一	七九		四九七五〇〇			四九七五〇〇
報德社	二四	一、六七二		二、三三五、三〇〇	二、三九二、八〇〇		三、四七〇、八三〇
其ノ他ノ團體	一七	六八二	一、二八九、〇五〇	二、八一二、八〇〇	一、六二二、四〇〇		四、一六九、四七〇
產業組合	二	一四二			五〇〇、〇〇〇		一、六九五、三三〇
町村役場	四	三一		一、五四九、〇〇〇		一九〇、〇〇〇	一、七四九、〇〇〇
計	一四〇	六、五九二	五、一三三、二六〇	四九、〇七四、三〇〇	一三、二九三、九四〇	六、九四四、〇三〇	一、一九五、三三〇
							七、五八三、八九〇

佐波郡

團體名	團體數	金額及預入先					
		全上人員	郵便局	銀行會社	個人	其ノ他聯合會自己組合	
小學校職員	二二	一九六	二、七九〇、八〇〇	一、七五〇、六〇〇	二二、〇〇〇		四、五三三、四一〇
全上兒童	一五	四、四六三	一三、五五六、九〇〇	四四、一七五〇			一三、九九七、四四〇
青年會	七	一、〇五五	一、五三二、六〇〇	四六、一〇〇〇	五、五四六、〇〇〇		二、五四七、七六〇
貯蓄金組合	一一	五、五七五	五、五七三、一〇〇	一五、〇九六、〇〇〇	九、六七二、〇五〇	一、三三三、一〇〇	七、七八七、八七〇
在郷軍人分會	一	一四五	四、三五〇〇				四、三五〇〇
肥料配合會	三	一〇五	二、五〇〇〇	一、六二〇、〇〇〇		六六、〇〇〇	一、八八一、〇〇〇
組肥配合會	三	一〇五	二、五〇〇〇	一、六二〇、〇〇〇		六六、〇〇〇	一、八八一、〇〇〇
產業組合	七	六三三		九、六五六〇			一四、七三三、六一〇
小學校職員	一	二九〇		四、二五四〇			四、二五四〇
互助會	一〇	七三	一、五四二、六五〇	二、七五〇、〇〇〇			一、八一七、六五〇
町村役場	一〇	七三	一、五四二、六五〇	二、七五〇、〇〇〇			一、八一七、六五〇
計	一六七	二、五七二	二、一六二、九二〇	二、五、一七九、九四〇	一〇、二四八、六五〇	二、二九九、一一〇	一、四七三、三六〇
							六、四二二、八〇〇

新田郡

團體名	團體數	全上人員	金額				計
			郵便局	銀行會社	個人	其他	
小學校職員	一四	一九五	四二四五〇〇	三二七〇〇〇			四、五六一、五〇〇
全上兒童	二	二四五三	九五九二七〇〇				九、五九二、七〇〇
青年會	八	五一一	三五八六六〇	五、九三五、四八〇	三七六、九九〇		一〇、〇六〇、〇〇〇
貯蓄金組合	二六	一、三九九	六、八九九、九六〇	一三、四七九、四六〇	二、一五〇、三〇〇		二二、六八一、三〇〇
養蠶組合	三	八九		三七六、三八〇			三、七六三、八〇〇
在郷軍人	一	一一五					九、三五五、〇〇〇
肥料配合會	一〇	三三三	六、三五〇〇	一〇、六四〇〇			二、七〇〇、二一〇
其他團體	二	二五	二、八四〇				一、〇八三、五八〇
產業組合	三	五三四	三、〇〇〇〇				七、一五四、三二〇
小學校職員	一	一九七		四〇、六四〇			四〇、〇六四〇
互助會	一	一					二、七〇、四六〇
町村役場	一	六	二、七〇、四六〇				四、八三三、三〇〇
計	八二	五、五六六	二二、八六七、七五〇	二二、五四一、四〇〇	四、九七一、三六〇	三七六、五八〇	五八、九八〇、六八〇

山田郡

團體名	團體數	全上人員	金額				計
			郵便局	銀行會社	個人	其他	
小學校職員	一七	二四二	四四七八三四〇	一、〇七五、七七〇			五、五五二、一一〇
全上兒童	一六	四、四八	一、六七四、三三〇	八四、二七〇			一、六八四、八六〇
青年會	六	二六七	八四、五六〇				一、一七四、〇一〇
貯蓄金組合	一九	六五一	七、三五五、三〇〇	三、九七五、二一〇	三、五〇〇、〇〇〇		一、一六八、〇五〇
納稅組合	七	四六		二、一八三、〇〇			二、一八三、〇〇〇
在郷軍人	一	四二		八、三七〇			八、三七七〇
其他團體	六	二二五	三、三八六、九〇	一、四九〇、二八〇			二、二二八、九七〇
產業組合	三	九七			三、〇〇〇、〇〇〇		八、一一八、六〇〇
町村役場	七	七七	八、六六七、九〇	七、二六八、〇〇			九、三六四、七〇〇
計	八二	六、四六五	三〇、六四九、〇八〇	八、八九九、一一〇	八、四〇〇、〇〇〇	二、三八四、〇〇〇	八二、一八六、〇四二、四八四、五五〇

邑樂郡

團體名	團體數	金額		及預入		先計
		全上人員	金	人	預入	
小學校職員	二	二二七	四二,五七〇			四九,六八〇
全上兒童	二〇	二,六四	七,一六七			七,一六七
青年會	五	二八八	四九,八二〇			一四,五二〇
貯蓄金組合	二七	一,二二六	二八,五〇六	七,三二八	四,四三七	一四,五二〇
在郷軍人分會	一	八五	九,一〇〇			九,一〇〇
工場	三	一,二一九		三,八〇七		二,八八七
其ノ他團體	一	四二	四,一〇〇			四,一〇〇
產業組合	二	九四		四,四六九		四,四六九
小學校職員互助會	一	一九六		一,五九八		一,五九八
町村役場吏員	四	二二	三,四七七	一,二八〇	八九三	四,七七四
計	八五	五,九二二	一五,一四七	一五,三二一	二,五九七	四二,五九一

前橋市

團體名	團體數	金額		及預入		先計
		全上人員	金	人	預入	
小學校職員	四	一〇九	二九,三七〇	五,八六五		二四,五〇五
全上兒童	三	七四二	三三,二一〇	九,八〇〇		四二,〇一〇
工場	五	二八	一〇,五〇〇	一,八二七	二,一〇〇	四,〇二七
其ノ他團體	一	一〇		一,六九四		一,六九四
計	一三	八八八	五,三九三	四,九七八	二,一〇〇	二二,四七六

高崎市

(三) 各團體別貯蓄調

小學校職員ノ部

團體名	團體數	金額		及預入		先計
		全上人員	金	人	預入	
小學校職員	一	二二〇	三,八七三			三,八七三
全上兒童	二	四元	二,〇七八			二,〇七八
青年會	一	九〇	一,四七五	一,五二四		二,〇九九
計	四	七元	六,〇八四	一,五二四		六,二四二

郡市別	種目	貯蓄金上				金額及預入先				創始年區別
		團體數人	郵便局	銀行會社	個人其他	團體數人	郵便局	銀行會社	個人其他	
勢多	多	二八	三三三	五五三	七〇	二二〇	一〇	一〇	二	自明治三十四年以前
群馬	馬	三五	五五三	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一	自明治三十四年以前
多野	野	一九	二九六	七三五	五〇	七三五	五〇	七三五	八	自明治三十四年以前
北甘	樂	一四	二〇二	六五四	八〇〇	一八六	八〇	六六〇	七	自明治三十四年以前
確氷	氷	二〇	二〇〇	九五四	三六七	五三四	六六七	五三四	四	自明治三十四年以前
吾妻	妻	八	一一六	三五六	八九〇	三五六	八九〇	三五六	一	自明治三十四年以前
利根	根	一一	五五三	四〇〇	一三二	一八八	〇	一六九	一	自明治三十四年以前
佐波	波	一五	四四六	五五五	六九〇	四四一	七五〇	九九七	八	自明治三十四年以前
前橋	橋	四	一〇九	一九三	七〇	二四六	三三〇	二四六	一	自明治三十四年以前
山田	田	二	二七	四二五	六七五	七一一	三三〇	四九六	一	自明治三十四年以前
新田	田	一七	二四二	四四七	八三四	一〇七	五七七	五五四	一	自明治三十四年以前
佐波	波	二	一九六	二七九	八二〇	一七五	〇六〇	四五六	九	自明治三十四年以前
利根	根	一九	一五六	一八四	〇〇〇	一四三	七七一	三九九	二	自明治三十四年以前
吾妻	妻	二二	四六	二五二	六五〇	九五五	六〇	三五〇	一	自明治三十四年以前
確氷	氷	二〇	二〇九	一七四	五二五	一八六	七九六	三六一	六	自明治三十四年以前
北甘	樂	二七	二七二	二二九	五〇	一八三	四一〇	四〇五	七	自明治三十四年以前
多野	野	三三	二〇八	三九九	三二〇	二〇〇〇	〇	四〇一	四	自明治三十四年以前
群馬	馬	三三	三八三	五七〇	九六〇	二八二	二二〇	八五三	八	自明治三十四年以前
勢多	多	二八	三三三	五五三	七〇	二二〇	一〇	六七三	二	自明治三十四年以前

管高	管内	金額及預入先				創始年區別
高崎	一	二二〇	三八七	三九〇	三、八七三	
高崎	一	二二〇	三八七	三九〇	三、八七三	一
高崎	一	二二〇	三八七	三九〇	三、八七三	一
高崎	一	二二〇	三八七	三九〇	三、八七三	一
高崎	一	二二〇	三八七	三九〇	三、八七三	一
高崎	一	二二〇	三八七	三九〇	三、八七三	一
高崎	一	二二〇	三八七	三九〇	三、八七三	一
高崎	一	二二〇	三八七	三九〇	三、八七三	一
高崎	一	二二〇	三八七	三九〇	三、八七三	一

小學校児童ノ部

郡市別	種目	貯蓄金上				金額及預入先				創始年區別
		團體數人	郵便局	銀行會社	個人其他	團體數人	郵便局	銀行會社	個人其他	
勢多	多	二八	三三三	五五三	七〇	二二〇	一〇	一〇	二	自明治三十四年以前
群馬	馬	三五	五五三	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一	自明治三十四年以前
多野	野	一九	二九六	七三五	五〇	七三五	五〇	七三五	八	自明治三十四年以前
北甘	樂	一四	二〇二	六五四	八〇〇	一八六	八〇	六六〇	七	自明治三十四年以前
確氷	氷	二〇	二〇〇	九五四	三六七	五三四	六六七	五三四	四	自明治三十四年以前
吾妻	妻	八	一一六	三五六	八九〇	三五六	八九〇	三五六	一	自明治三十四年以前
利根	根	一一	五五三	四〇〇	一三二	一八八	〇	一六九	一	自明治三十四年以前
佐波	波	一五	四四六	五五五	六九〇	四四一	七五〇	九九七	八	自明治三十四年以前
前橋	橋	四	一〇九	一九三	七〇	二四六	三三〇	二四六	一	自明治三十四年以前
山田	田	二	二七	四二五	六七五	七一一	三三〇	四九六	一	自明治三十四年以前
新田	田	一七	二四二	四四七	八三四	一〇七	五七七	五五四	一	自明治三十四年以前
佐波	波	二	一九六	二七九	八二〇	一七五	〇六〇	四五六	九	自明治三十四年以前
利根	根	一九	一五六	一八四	〇〇〇	一四三	七七一	三九九	二	自明治三十四年以前
吾妻	妻	二二	四六	二五二	六五〇	九五五	六〇	三五〇	一	自明治三十四年以前
確氷	氷	二〇	二〇九	一七四	五二五	一八六	七九六	三六一	六	自明治三十四年以前
北甘	樂	二七	二七二	二二九	五〇	一八三	四一〇	四〇五	七	自明治三十四年以前
多野	野	三三	二〇八	三九九	三二〇	二〇〇〇	〇	四〇一	四	自明治三十四年以前
群馬	馬	三三	三八三	五七〇	九六〇	二八二	二二〇	八五三	八	自明治三十四年以前
勢多	多	二八	三三三	五五三	七〇	二二〇	一〇	六七三	二	自明治三十四年以前

郡市別	種目	貯蓄金組合ノ部		青年會ノ部		創始年區別
		團體數人員	金額及預入先	金額及預入先	金額及預入先	
新田	田	二	二四三九,九七〇	—	—	一〇
山田	田	二六	四,四八〇 一六,七六〇 七,六四〇 三五〇	八四二七〇	—	一〇
邑樂	橋	二〇	二,六四七,一六六 七〇	—	—	一〇
前橋	橋	三	七四一,三三二 一〇〇	九四八七〇	—	一〇
高崎	橋	二	四八二,〇八七 二〇	—	—	一〇
管內	橋	二〇	一〇,一三四,七七八 一〇〇 九〇〇 三,六一八 六〇	—	—	一〇

郡市別	種目	貯蓄金組合ノ部		青年會ノ部		創始年區別
		團體數人員	金額及預入先	金額及預入先	金額及預入先	
勢多	多	二七	一,九七三 九,五〇三 四〇 二,六六五 七〇	七九一八九〇	—	二
群馬	馬	三三	一,一七一 一,三九五 三七〇 二,五〇一 〇〇〇	八,五九四〇	—	二
多野	野	三三	二,二一四 三,〇一六 九八〇	一八〇〇〇	—	二
北甘樂	樂	一九	九四九 一,三三四 五〇〇	三七〇〇〇〇	三七七七八〇	二
管內	樂	一九	一,一六六 一,一〇〇 二,一四三 九〇	七五八九五〇	三,三九五 五三〇	二

郡市別	種目	貯蓄金組合ノ部		創始年區別
		團體數人員	金額及預入先	
碓氷	水	一九	一,一六六 一,一〇〇 二,一四三 九〇	二
吾妻	妻	二二	一,五六一 一,四七九 九〇	四
利根	根	二二	一,一四五 三,六九三 〇〇 五,一七一 一五〇	一
佐波	波	七	一,〇五五 一,五三二 六〇	一
新田	田	八	五二一 三,五八六 六〇〇 五,九三五 四八〇	一
山田	田	六	二六七 八,四五六 一〇	一
邑樂	樂	五	二八八 四,八九二 〇〇 九,六二九 〇	一
高崎	崎	一	九〇 一,四七五 〇〇 一,五六二 四〇〇	一
管內	內	二六	一,六六六 五,三四九 一〇 一,八八六 一〇〇	一

勢多	郡市別	種目	貯蓄金組合ノ部		創始年區別
			團體數人員	金額及預入先	
五〇	勢多	多	一八四 三,二七八 〇〇 二,九四七 八七〇 八,一五五 五〇〇 三,三三八 七〇〇	三 一 二 七 八	
—	團體數人員	團體數人員	—	—	
—	郵便局	郵便局	—	—	
—	銀行會社	銀行會社	—	—	
—	個人	個人	—	—	
—	其他	其他	—	—	
—	計	計	—	—	
—	以前	以前	—	—	
—	五年至十年	五年至十年	—	—	
—	十年以上	十年以上	—	—	
—	不明	不明	—	—	

郡市別	種目	納稅組合ノ部				創始年區別
		貯蓄全上	金額及預入先	郵便局銀行會社個人其他	計	
群馬	馬	四六	三,四〇七,五八二,〇〇〇	九,一〇六,一〇八,二一九〇	八,八七〇,三三〇	一
多野	野	一七	二,二七三,五〇六,六九〇	二,九二五,〇一〇	三,六六〇,八三五,〇三〇	一
北甘樂	樂	二四	九八〇,一〇七,六三〇	一,五二四,九〇〇	二,四五〇,〇七三,〇二〇	一
碓氷	氷	一六	一,一九二,一七九,四六〇	四,三三〇	七,三〇一,八五〇	一
吾妻	妻	五八	二,三六〇,一三三,〇〇〇	四,三三〇	五,七〇〇,八〇〇	一
利根	根	三九	一,五八一,四〇五,一〇〇	九,一四二,〇〇〇	九,〇〇〇,〇〇〇	一
佐波	波	一一	五,五六七,五一一	一,一〇五,〇〇〇	二,二七六,二〇〇	一
新田	田	二八	一,一三九,六八九,九六〇	四,七九〇	一,三三三,一〇〇	一
山田	田	一九	六,五一一,七三五,三〇〇	三,九七五,二一〇	二,一五五,五八〇	一
邑樂	樂	二七	一,二一六,二八五,〇五〇	七,二八八,五〇〇	四,四三七,七〇〇	一
管內	內	四五	二,三三三,一〇〇,〇〇〇	九,九〇二,一七三,〇〇〇	四,五五〇,一三〇,〇〇〇	一

郡市別	種目	金額及預入先				創始年區別	
		貯蓄全上	郵便局銀行會社個人其他	計	計		
群馬	馬	九	五,一〇〇,六九五,五〇〇	一,二五四,五〇〇	五,〇〇〇,一〇,九三〇,五〇〇	二〇,二七三,〇〇〇	一
多野	野	四	七,七九〇,九三三,二〇〇	二,八四四,四六〇	二,九二〇,八〇〇	三,四八五,八〇〇	一〇,七〇〇
北甘樂	樂	一	一七〇,〇〇〇	—	—	一,一七〇,〇〇〇	一
碓氷	氷	一〇	三,八三三,九五四,一〇〇	三,八五八,一〇〇	—	三,八七四,〇〇〇	五,一九三,三一一〇
吾妻	妻	二	七〇,〇〇〇	—	—	九七,九〇〇	一
利根	根	一七	六,八二二,八八九,〇五〇	二,八二八,二八〇	一,六二二,四〇〇	四,二六九,四七〇	一
新田	田	二	二五〇,〇〇〇	—	—	一,〇八三,五八〇	一
山田	田	六	二,二五〇,三六六,九〇〇	一,四九〇,二八〇	三,〇〇〇,〇〇〇	二,二二八,九七〇	一
邑樂	樂	一	四二〇,〇〇〇	—	—	四二〇,〇〇〇	一
前橋	橋	一	一〇〇,〇〇〇	—	—	一,六六九,四五〇	一
管內	內	六四	三,〇六五,五四九,三〇〇	一,三九七,八〇〇	四,四八八,一〇〇,五三〇,二五〇	三,三一一,四七〇	一

産業組合ノ部

郡市別	種目	貯蓄 金 額 及 預 入 先	組合 個人 郵便局 計	創始年區別	貯蓄		金額及預入先		創始年區別	
					團體	人員	銀行	聯合會		自己
勢多	多	三三,一三五	一九,八八〇	二	二	四,六一〇	四,六一〇	二	二	一五至一六
群馬	馬	二六,三八三	一五,九八〇	二	二	四,二四七	四,二四七	二	二	一五至一六
多野	野	一四,一四二	六,九四〇	一	一	八,一八〇	八,一八〇	一	一	一五至一六
北甘樂	樂	二八,三八四	三,四三〇	一	一	四,四〇〇	四,四〇〇	一	一	一五至一六
確氷	氷	五,六九三	一,〇〇〇	一	一	九,八六〇	九,八六〇	一	一	一五至一六
吾妻	妻	七,九六九	二,六〇〇	一	一	二,一七〇	二,一七〇	一	一	一五至一六
利根	根	二,一四二	一,二〇〇	一	一	一,九四〇	一,九四〇	一	一	一五至一六
佐波	波	六,三三三	九,五六〇	一	一	一,五七〇	一,五七〇	一	一	一五至一六
新田	田	三,五三四	一,〇〇〇	一	一	三,五三四	三,五三四	一	一	一五至一六
山田	田	三,九七	一,〇〇〇	一	一	三,九七	三,九七	一	一	一五至一六

小學校教育互助會ノ部

郡市別	種目	貯蓄 金 額 及 預 入 先	創始年區別	貯蓄		金額及預入先		創始年區別
				團體	人員	郵便局	銀行會社個 人其ノ他 計	
勢多	多	三三,一三五	二	二	四,六一〇	四,六一〇	二	二
確氷	氷	二,〇九三	一	一	二,〇九三	二,〇九三	一	一
佐波	波	二,五〇三	一	一	二,五〇三	二,五〇三	一	一
新田	田	二,〇八四	一	一	二,〇八四	二,〇八四	一	一
管内	内	一,二七六	一	一	一,二七六	一,二七六	一	一
管内	内	一,〇〇〇	一	一	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一	一

町村役場吏員ノ部

郡市別	種目	貯蓄		金額及預入先		創始年區別
		團體數人	員	金額	預入先	
勢多	多	二	九二,二四七六〇	四六一,五四〇〇	二七,九一五〇	九
群馬	馬	一	六三,六〇〇	—	三六,〇〇〇	—
多野	野	八	四八,六六七〇	—	六六,七二〇〇	七
北甘	甘	三	二〇,一〇一六〇	—	三〇,六四九〇	—
確水	水	二	一一,八四七五〇	—	一八,四七五〇	—
吾妻	妻	三	二二,三六九六〇	—	三六,九六四〇	—
利根	根	四	三二,一五〇二六〇	一五,四九〇〇	一九,〇〇〇	四
佐波	波	一〇	七三,一五四二六〇	二七,五〇〇〇	一八,七六五〇	—
新田	田	一	六二,七〇四六〇	—	二七,〇〇六〇	—
山田	田	七	八六,六七九〇	七二,六八〇	九三,八四七〇	—
山樂	樂	四	二二,三四五七〇	一八,八〇〇	四四,七七四〇	—
管內	內	五	四〇六,六六四〇	二,五四二,五〇〇	二七,九三〇,九四六,二四五〇	—
計						

(四) 官公署中等學校貯蓄調
郡市役所ノ部

郡市別	種目	貯蓄		金額及預入先		貯蓄標準	創始年月日
		人員	金	金額	預入先		
勢多	多	二〇	一,一〇五,九〇〇	—	一,一〇五,九〇〇	明治四十三年一月廿日	
多野	野	一〇	—	五,五五〇	—	大正四年十二月廿一日	
北甘	甘	一八	二,六五六九〇	—	二,六五六九〇	大正四年十一月十三日	
吾妻	妻	一七	六,〇〇〇	—	六,〇〇〇	大正六年四月廿日	
利根	根	二六	—	一八,八八〇	—	不詳	
佐波	波	二四	一,六五五七〇	—	一,六五五七〇	明治四十三年五月	
新田	田	一九	一五〇,二九〇	四四,一七〇	五九,二〇〇	不詳	
邑樂	樂	一〇	五九,九五〇	—	五九,九五〇	明治四十二年八月廿五日	
前橋	橋	三九	五,五三七〇〇	—	一,七四七,一八〇	明治三十五年一月廿六日	
高崎	崎	四七	一,五二〇,九〇	—	一,五二〇,九〇	明治四十二年十一月	
計		二一〇	四,四八七,七〇	六八三,三四〇	六,二五三,九〇		

中等學校職員ノ部

學校別種目	貯蓄人員	金額及預入	行其ノ他	計先	貯蓄標準	創始年月日
女子師範學校	職員200 生徒200	1,056,950	1,056,950	1,056,950	每月俸給ノ百分ノ五以上	明治卅七年七月十七日
前橋中學校	50	90,750	1,388,000	1,048,300	每月俸給ノ百分ノ一〇五拾錢	明治四十五年四月
藤岡中學校	50	184,750	1,388,000	1,048,300	每月俸給ノ百分ノ一〇五拾錢	明治三十五年七月廿一日
富岡中學校	9	631,000	631,000	631,000	各自ノ任意ニ依ルモノトケ月拾錢以上ノモノト二種	明治四十年頃
沼田中學校	3	272,800	272,800	272,800	每月俸給ノ百分ノ一以上	大正三年七月
太田中學校	2	422,200	330,700	752,900	每月俸給ノ百分ノ二以上	大正三年十月廿一日
勢多農林學校	8	651,000	287,700	938,700	每月俸給ノ百分ノ一賞與及旅費額十分ノ一増俸ノ際ハ其ノ十分ノ一	大正二年五月二十一日
館林農學校	9	183,800	100,000	283,800	每月俸給ノ百分ノ一以上	大正元年十月二十一日
蠶絲學校	3	1,547,700	1,547,700	1,547,700	每月俸給ノ百分ノ二以上	明治四十三年五月
工業學校	3	1,101,300	1,101,300	1,101,300	每月俸給ノ百分ノ一以上	明治四十三年五月

警察署ノ部

前高等女學校	高等女學校	高等女學校	合計
8	26	16	50
1,036,900	1,396,000	1,396,000	3,828,900
1,036,900	1,396,000	1,396,000	3,828,900
1,036,900	1,396,000	1,396,000	3,828,900
每月俸給手當ノ百分ノ五以上	每月俸給ノ百分ノ一以上	每月俸給ノ百分ノ一以上	每月俸給ノ百分ノ一以上
明治四十五年四月廿一日	明治四十三年一月		

署別種目	貯蓄人員	金額及預入	行其ノ他	計先	貯蓄標準	創始年月日
高崎警察署	69	2,157,860		2,157,860	每月俸給中ヨリ五拾錢以上	明治四十年
澁川警察署	33	901,630		901,630	每月俸給中ヨリ五拾錢以上	明治四十年
安中警察署	26	636,770		636,770	每月俸給中ヨリ五拾錢以上	明治四十年
松井田警察分署	33	501,330		501,330	每月俸給中ノ百分ノ三以上外ニケ月一ノ三以上外ニケ月一ノ三以上	明治四十年
富岡警察署	22	710,410		710,500	每月俸給ノ百分ノ三以上	明治四十年四月
吉井警察分署	33	1,015,700		1,015,700	全	全
伊勢崎警察分署	35	1,129,040		1,129,070	全	全
太田警察署	33	547,710	358,650	906,360	每月俸給中ヨリ一圓ツ、	明治四十年四月三十日

館林警察署
桐生警察署
沼田警察署
合計

二五
二四三三〇
一五
五五四九〇
二九
一、二六五九〇
三〇
八、六七八九〇

二四三三〇
五五四九〇
一、二六五九〇
八、六七八九〇

二四三三〇
五五四九〇
一、二六五九〇
八、六七八九〇

俸給及旅費ノ中ヨリ任意蓄積
毎月俸給ノ百分ノ三以上

明治四十年四月
全

鐵道院ノ部

種目

貯蓄人員

金額

及預入

計先

貯蓄標準

創始年月日

新町驛員
安中驛員
松井田驛員
橫川驛員
機關庫員
橫川驛員
橫川派出所
橫川
保線區員

一五
一〇
八
二七
二七
二七五
一七〇

二六九三〇
二七一九〇
四二〇七〇
三、三九〇九五〇
二、五五二〇〇
九、三四八九七〇
四、一〇一三〇

二六九三〇
二七一九〇
四二〇七〇
三、三九〇九五〇
二、五五二〇〇
九、三四八九七〇
四、一〇一三〇

毎月俸給ノ百分ノ五以上
毎月俸給ノ百分ノ一以上
毎月俸給ノ百分ノ一以上
毎月俸給ノ百分ノ一以上
毎月俸給ノ百分ノ一以上
毎月俸給ノ百分ノ二以上
勤勉手当臨時給與金ノ百分ノ二以上
毎月俸給ノ百分ノ三以上

明治卅九年十二月
明治卅八年四月一日
明治三十七年
明治三十七年
明治四十五年
明治四十三年十二月

桐生
機關庫員
桐生
保線區員
桐生驛員
合計

六九
二二
五五
九〇九

一、三六四四〇
二、三四八八〇
一、三五九七六〇
二五、三六三三〇

一、三六四四〇
二、三四八八〇
一、三五九七六〇
二五、三六三三〇

毎月俸ノ百分ノ一以上
毎月俸給ノ百分ノ一以上
毎月俸給ノ百分ノ二以上

明治四十年
明治四十九年
明治四十年
明治四十年
四月一日

郵便局員ノ部

局名種目

貯蓄人員

金額

及預入

計先

貯蓄標準

創始年月日

桐生
郵便局員
桐生電信電話技術官駐在所
安中郵便局
松井田郵便局
合計

五
八
三
二
八

五、七七八七〇
一、七八〇〇〇
二、四九六〇〇
一、五〇〇〇〇
一、一五〇八三〇

五、七七八七〇
一、七八〇〇〇
二、四九六〇〇
一、五〇〇〇〇
一、一五〇八三〇

毎月俸ノ百分ノ一以上
一口拾錢以上
毎月給料中ヨリ參拾錢以上

明治二十九年
明治四十五年
明治三十七年
明治三十四年
四月一日

各廠ノ部

區別	種目	貯蓄			金 額 及 預 入 先			貯蓄標準	創始年月日
		人員	郵便局	銀行	其ノ他	計	計		
縣 廳	物產陳列館	二六				二四七四八〇		大正三年六月廿二日	
	輸出絹織物	五				四五二〇	俸給月額五十圓以上百分ノ二全未滿	大正五年三月卅一日	
	検査所	七	五九三〇			五九三〇	五及外ニ口ニ拾錢	大正四年九月廿一日	
	原蠶種	五	二五二〇			二四一六〇	二以上	大正二年四月廿一日	
	製造所	一〇	二九一五〇			二九一五〇	每月俸給ノ一部	明治四十二年十一月十八日	
	農事試驗場						每月俸給ノ百分ノ一以上	大正三年四月一日	
	蠶業取締所	二天	一〇一〇〇			二五三四〇			
合 計		二七	四七六三〇	二八九二〇		三三七三四〇			

勤儉貯蓄ニ關スル各種ノ規約並施設中比較の優良ト認ムルモノ左ノ如シ

倉田村第三區共和會々則

第一章 總 則

第三條 本會ハ會員一致協力シテ德義ヲ厚フシ風俗ヲ矯正シ諸般ノ冗費ヲ省キテ勤儉貯蓄ヲ行ヒ以テ他日ノ凶災ニ備ヘ併テ殖産興業ヲ獎勵シテ本會區域内ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二章 事 業

第七條 本會々員ハ貯蓄金増殖ノ目的ヲ以テ一ヶ月一戸金參拾鐵宛ヲ本會々計部へ毎月廿五日限

拂込ヘシ

但シ收支殘額貯蓄金ハ每年定時總會ノ決議ニヨリ基本金ニ組入ル、コト

第十條 本會基本金及貯蓄金ノ使用法ハ左ノ項目ニ限ル

- 但シ基本金ハ役員會ノ決議ヲ經ルニアラサレハ使用スルヲ得ス
- 一、本會員ニシテ天災及不幸ニ遭遇シタルモノニ金錢及物品ヲ義捐スル時
- 二、本會員ニシテ業務精勵本會ノタメニ功勞アリタルモノ及善行ヲナシ一般會員ノ模範タルモノニ褒狀及褒賞金ヲ付與スル時
- 三、教育宗教衛生及隣村トノ交誼其他一般會員ノ共同義務ヲ果ス場合
- 四、道路河川橋梁堤防其他一般公共事業ノタメ必要ナル經費ノ補助ヲ要スル時
- 五、會費支辨ノ際

第四章 義 務

第二十二條 本會々員ハ軍人ヲ優遇スルハ勿論本會區内入退營者アルニ際シテハ可成其歡送迎ヲ壯ニスルコトニ務ム可シ

但シ平時ハ歡送迎會ヲ廢スルコト

第二十三條 本會區内居住者ニシテ販郷スル場合ニ土產物ハ一切ナサルコト

第二十四條 本會ニ會旗及軍人歡送迎旗各一旒ヲ備ヘ送迎ノ都度之レヲ使用ス

但シ旗手ハ同年受檢者及其ノ小區内ノ義務トス

第二十五條 諸税ハ各人ノ免ルヘカラサル義務ナレハ必ス遲滞ナク納付スヘク若シ其筋ヨリノ督促ヲ受クル等ハ自己ノ信用ヲ失シ本會ノ体面ヲ害スルノミナラス法律上ノ制裁ヲ受クルヲ以テ各自日常注意アルヲ要ス

但シ數回督促ヲ受ケ尙ホ改心ノ狀ナキモノハ滯納ノ惡弊ヲ一洗スルタメ總會席上ニ其ノ氏名ヲ揭示ス

第二十七條 水火災ノ場合ハ消防組以外ノモノト雖モ應援區域内ハ毎戸可成出場スヘキコト
第二十八條 本會々員タルモノハ公私ヲ問ハス通知セラレタル時間必ス遵守スルコト

第五章 過怠及處分

第二十九條 第二十八條ノ目的ヲ達セムカタメ本會々議ハ勿論凡テ集會等ノ場合ハ通知セラレタル時間ヨリ二時間以上理由ナクシテ無斷遲滯スルカ又ハ無斷缺席スルモノアルトキハ第十五條ニ定メラレタル役員決議ノ上金五錢以上金貳拾錢以下ノ過怠金ヲ徵收ス

但シ過怠金ハ本會貯蓄金中ニ加フ

第三十條 前條ノ過怠金ヲ課セラレタルモノニシテ之レヲ拒絶スルモノハ勿論之レヲ納付セサルモノ亦ハ數回ノ過怠金ヲ課セラレタルモノニシテ尙ホ改心ノ狀ナキトキハ本會ノ決議ニヨリ本會員ヲ除名シ一般會員ハ私交ヲ遠慮スルコト

但シ役員ノ過怠金ハ金拾錢以上四拾錢以下トス

第七章 附 則

第三十四條 祝儀縁組葬儀ハ別ニ定メタル施行細則ニヨリ可成冗費ヲ省キ倉田村々會ノ議決シタル戸數割等級ニヨリ會長ノ承認ヲ經テ一點金壹錢以上ヲ本會々計部ヘ寄附スル義務アルモノトス

但シ未婚ノモノハ葬儀ハ此限リニアラス

第三十五條 本區域内居住者ハ無斷ニ他人ノ所有地ニ立入り竹木ヲ伐採スルコトヲ嚴禁ス

會員 平常心得

一、凡テ上ヨリ命令達等ハ克ク守リ反則セサルコト

二、賭博嚴禁ノ主旨ヲ固ク守ルコト

三、公利公益ヲ謀ルハ勿論一家ノ事モ亦疎ニスヘカラス

四、長上ニ逆ヒ家事ヲ怠リ酒色ニ耽ル等不良ノ振舞アル可ラス

五、職業上有益ト認ルモノハ研究改良スルコトニ勉ムヘシ

六、衛生上ニ深ク注意スルコト

七、家庭ノ圓滿ヲ謀リ子弟ノ教育ヲ重シ無學ノモノナキ様勉ムルコト

八、長上ニ孝養ヲ盡スコト

九、己レノ業務ヲ克ク勉メ暮シノ豐ナルコトヲ心掛クヘシ

十、無益ノ遊戯ヲ戒メ怠惰ノ弊風ヲ改ムルコト

十一、祝儀葬儀其他凡テノ吉凶ニヨリ集ルトキハ情誼ヲ厚フス無益ノ費用ヲ省カシ互ニ施主ヲ助クルコト

十二、平素火ノ元ニ注意シ疎泄取扱ヲナサ、ルコト

十三、何事ノ集會ニヨラス會合ノ時ハ時間ヲ違リサルコト

十四、諸種ノ纏等ノ事柄ハ可成互ニ説諭シ近隣ニ於テ和談ヲ謀リ狼リニ訴訟ヲナサ、ルコト

十五、會飲ノ際ハ酒杯ノ交換ヲナサ、ルコト

十六、正月盆暮及五節句等交誼上進物ノ取り遣リハ可成ナサ、ルコト

十七、何事ニヨラス一旦約束シタコトハ必ス守ルコト

十八、用水ニ塵埃ヲ捨テ亦ハ汚物洗濯スヘカラス

十九、祭日ノトキハ毎戸國旗ハ樹ツル様努ム可シ

二十、田圃山林ノ界ヲ正シ苟モ他人ノ所有地、道路、堤防、堀等ニ浸入スヘカラス
二十一、無斷ニ他人ノ山林ニ入り枯枝落葉等取ラサルコト
二十二、困難相救フノ情誼ヲ厚クシ水火盜難其ノ他災害ニ罹リタルトキハ互ニ防禦救助ヲ盡スコト
二十三、凡テ借リタルモノハ早ク必ス返スコト
右ノ外苟モ會員トシテ恥シカラヌ様平素心掛クルハ勿論ノコト

其和會施行細則

第三條 婚儀葬儀ニ際シテハ其ノ施主タルモノハ耕地評議員ノ立會ヲ得協議上施行スルコト
第四條 施主ハ立會シタル評議員ニ協議シ左ノ數項ニ基キ實施履行ヲナスコト

一、婚儀葬儀及年回ヲ施行スルモノハ舊慣ニヨリ各分相應ノ式ヲ舉クルハ妨ケナシト雖成可元費ヲ省クコト

二、葬儀ニ際シ本會員ニシテ交誼上會葬者アリト雖モ施主ハ一切食席ノ準備ハナサ、ルコト併シ指定ノ時刻ニ遲引ヲ來シ若シ空腹ノ虞アリト認ムルトキハ之レカ空腹(飯、汁皿ノ以內ニ於テナスコトヲ)慰セシムルコトヲ得

三、婚儀ニ際シ食席祝酒ハ一人ニ付(二合)吸物ニ吸以上ヲ超エサルコト、シ取肴モ亦之レニ準スルコト

但シ酒盃ノ交換ヲ禁シ食席以外ノ飲酒ハ全ク之レヲ廢スルコト
四、婚儀ハ人倫ノ大義ニシテ其人一生ノ祝典之レニ過クルモノナシ故ニ一般祝意ヲ表スルハ勿論ナリト雖モ徒ニ飲酒ヲ擅ニシテ酪酪シテ前後ヲ失シ人事不省トナリテ喧囂泥醉(祝席ニ嘔吐ヲナシ亦ハ喧嘩口論等ナスヲ云フ)スルハ却テ禮儀ヲ失シ大ニ迷惑スル處ナレハ會員タル

モノハ相互相誠メ可成斯ル振舞ニ出テサルコト

五、婚儀葬儀ニ際シ食席ニ列スルモノハ一人トス其以外ノモノハ專ラ施主ニ助力スルノ目的ヲ以テ可成勝手ニ於テ喫食、空腹ヲ慰スルヲ云フ)スルコト

六、婚儀ニ際シテハ施主ノ希望ニヨリ會席ニ施行スルモ妨ケナシ
七、婚儀縁組葬儀ヲ施行シタルモノニシテ附則第三十四條ニ定メタル寄附金ノ義務ヲ果ス場合ニハ當時戸主ノ等級ニ應シ施行當日ヨリ一週間以內ニ必ス納付スルコト

但シ貧困者ニシテ寄附金ノ義務ヲ全フスル能ワサルモノアルトキハ役員會ノ決議ヲ以テ之レカ延免ヲナスコトヲ得

八、前項ノ場合ニ於テハ耕地評議員ハ確實ニ之レヲ努ム可シ若シ之レカ納付ヲ拒ムモノアルカ亦ハ期日ヲ經過スルモ納付セサトキハ耕地評議員ハ會長ニ其ノ事由ヲ報告スヘク已ニ其ノ申告ヲ得タル會長ハ施主ニ向テ寄附金徵收狀ヲ發送ス可シ以上ノ場合ニヨルモ尙ホ肯セサルトキハ會長ハ役員ニ諮問シ決議ヲ經テ本則二十九條ヲ適用ス

第五條 婚儀縁組葬儀以外ノ振舞ニハ寄附金義務ヲナサ、ルコト

第六條 正月、五節句、盆、暮、進物ノ取り遣リハ可成之レヲ廢シ止ムヲ得サレハ金錢若クハ物品ニ替ヘ飾式(羽子板、弓、籠、鯉幟等)ニ流ル、モノハ全ク之レヲ廢スルコト

第七條 誕生、四十九日等ノ取り遣リハ全廢スルコト

參照

大正六年五月一日現在貯蓄金額二九七圓三三五貯蓄人員一三一人
碓氷郡日井尋常高等小學校鷄卵貯蓄施設ノ狀況

(一) 施設ノ目的

小學校兒童ヲシテ家庭ニ於テ養鶏ノ管理飼養ヲナシメ之ニヨリテ得タル鶏卵ノ一部ヲ學校ニ持テ來ラシメ共同販賣ヲナシ其ノ代金ヲ貯金セシメ勤勞貯金ノ實ヲ舉ケシムルニアリ而シテ之ニヨリテ貯蓄心ノ涵養ト勤勞ノ習慣トヲ養ヒ兼ホテ農家ノ副業的養鶏業ヲ獎勵セントスルニアリ

(二) 蓄積方法

一、養鶏ノ獎勵
 兒童ノ家庭ニ於ケル養鶏ヲ獎勵シ養鶏ノ趣味ヲ養ヒ勤勞ノ習慣ヲ得セシムルタメ學校内ニ鶏舎ヲ設ケ兒童ヲシテ交代ニ當番トナラシメ飼養セシメ時々養鶏ニ關スル講話ヲナシ養鶏上ノ知識技能ヲ養フコトニツトメ又兒童ヲシテ家庭ニ於テ養鶏ノ管理飼養ニ當ラシメ産卵ノ一部分ヲ報酬トシテ貰ヒ受ケ貯蓄セシム尤モ中ニハ兒童ノ持分タル鶏ヲ定メ其ノ産卵ヲ以テ蓄積セシムルモノアレトモ至ツテ少シ

二、鶏卵ノ受附

貯蓄日ニ定メラレタル土曜日ニ至レハ兒童ハ鶏卵ヲ安全ニ運フニ足ルヘキ容器ニ鶏卵ヲ入レテ學校ヨリ交附セラレタル鶏卵通票ト共ニ受附所ニ差出ス受附所ニテハ當番教員カ兒童當番ヲ指揮シテ個數重量等ヲ調ヘテ受附簿ニ記入シ同時ニ兒童ノ鶏卵通票ニモ記入シテ返附ス而シテ受附ケタル鶏卵ニハ兒童ノ番號ヲ記入ス此ノ番號ハ加入當時ヨリ附シタル番號ニシテ常ニ變更セサルモノナリ鶏卵ニ此ノ番號ヲ記入スルハ後日販賣先ニ至リ腐敗卵ヲ發見シタルトキハ其ノ納附シタル兒童ヲ見出サンカタメナリ然レトモ今日マテ一ノ腐敗卵ヲ出シタルコトナシ

四、賣上代金ノ處理

(三)

一、開始動機
 本校ニテハ明治三十三年以來切手貯金施設ヲ開始シ今日尙繼續實行シ良好ノ成績ヲ收メツ、アリ然レトモ學童貯金中ニハ例ノ取次ギ貯金多クシテ勤勞ヨリ得タルモノ又ハ節約ノ結果得タルモノ尠ク貯蓄心涵養ノ目的ヲ遺憾トスル所多カリシヲ以テ當校ニテハ種々考究シテ勤勞貯金ヲ獎勵シタル結果兒童ハ夫々家庭手傳ノ外除草受負(大林區署苗圃)薪負ヒ御使ヒ繭搔キ停車場雜用(刈)等夫々適當ナル仕事ヲナシ得タル金錢ノ一部ハ必ス貯金スルニ至リシモ未タ農家ノ子弟タル兒童ノ貯金ハ他ノ商家其他ノモノニ比シテ甚タ尠カリシヲ以テ農家ノ兒童ノ趣味ヲ持タシメ且ツ間斷ナク貯蓄スル方法ヲ講究シタル上爰ニ鶏卵貯金ナルモノヲ開始シタルナリ

賣上代金ハ夫々兒童ノ毎月蓄積シタル鶏卵ノ重量ニ應ジテ精算シ貯金スルナリ掛相場最低十四掛(百匁ニ付金十四錢)ヨリ最高二十五六掛位迄トシテ市價ニ應ジテ常ニ高下セリ精算ノ方法トシテハ主任者ヨリ掛相場ヲ表示シテ何月分ノ處理ヲナスヘキ旨通告スルトキハ各教員ハ當月貯蓄シタル受持兒童ヨリ鶏卵通票ヲ引上ケ精算シ郵便貯金通帳ト共ニ主任者ニ差出ス又一方其ノ月當番教員ハ賣上簿ニヨリテ精算表ヲ作り買受人ヨリ代金ヲ徵收シ主任者ニ納付ス主任者ハ鶏卵通帳ト兒童通票ト照合シ夫々貯金スルナリ

二、校長ノ自宅養鶏

本校ニテハ明治三十四年四月自宅ニ一養鶏場ヲ設置シ各種ノ種禽類ヲ農商務省ヲ始メトシ其ノ他ノ飼禽場ヨリ取寄セ飼養シ種卵ノ配付ヲナシタリ時偶ニ農商務省ニ於テモ切リニ副

業的養鶏業ノ獎勵ヲ努メタルノ時ナリシヨ以テ忽チ養鶏思想ヲ喚起シ爲メニ町内ノ養鶏數大ニ増加シ且ツ鶏種ノ改良ヲ圖ルコトヲ得タルヲ以テ明治四十二年七月愈實施スルニ至リシニ大ニ父兄等ノ歡迎スル所トナリ兒童ハ趣味ヲ持テツ、養鶏ノ飼養ヲ勉メ喜ンテ貯金スルニ至リヌ

三、將來ニ關スル意見

實施當時ハ一般養鶏思想ノ向上シタル時期ナリシヲ以テ各農家ハ競ツテ養鶏ヲナシ隨テ産卵數モ多ク且ツ施設當時ノ好奇心ニ驅ラレ爲メニ兒童ノ貯蓄高モ甚多カリシモ其ノ後年々鶏數ノ減少ヲ示シ貯金高モ隨ツテ減少スルニ至リシハ次表ニヨリテ知ルヲ得ヘシ而シテ之カ減少ノ原因トシテハ農家ニ於テ多數飼養ノ結果農作物ノ被害多クタメニ近年其ノ飼養數ヲ減少セシメタルハ疑フヘカラサル所ナレトモ一面ヨリ云ヘハ此ノ當時農業生産物ノ暴落ニ伴ヒ農家經濟狀態著シク逼迫シ貯金力ノ衰退シタルニモ因ル所多シ然レトモ本施設ノ農村小學校ニ適切ニシテ効果アルハ夙ニ町民ハ勿論一般ノ認識スル所ナルヲ以テ經濟狀態ノ回復ト共ニ一層ノ獎勵ヲナスニ於テハ再ヒ初期ニ遡リテノ旺盛ヲ見ルニ至ルヘシ故ニ本校ニ於テハ本年孵化時期ニ於テ兒童ノ孵化育雛ヲ獎勵シ家庭ニ於ケル鶏數ヲ増加セシメ一面ニ於テハ學校カ中心トナリテ養鶏上ノ改良發達ヲ圖リ本施設ヲシテ益々進展セシメ當初ノ目的ヲ達セムコトヲ期ス

四、成績

開始ヨリ大正五年十二月ニ至ル各年別取扱鶏卵數並ニ貯金高

年別數	蓄積個數	蓄積重量	賣上代金	貯金高	貯金兒童延人員
自明治廿二年七月至全年十二月	3000	4186	8055	7379	86
明治四十三年	6011	8640	13109	12434	1068
全 四十四年	3659	5083	8156	8156	533
全 四十五年	2386	3337	5518	5518	367
大正元年	1014	2317	2964	2964	240
大正二年	955	1360	2348	2348	215
大正三年	572	820	1534	1534	194
大正四年	925	2214	2494	2494	241
大正五年	1854	2697	4767	4320	374
計				9750	

參 照

大正六年五月一日現在貯金額一〇〇四圓一五九、(切手貯金ヲモ含ム)貯金人員三七四人

五、訓育上ニ於ケル効果
 兒童ハ鶏ノ成長ヲ樂ミツ、育雛ヲナシ産卵ヲ樂ミツ、飼育ニ努メ孜孜トシテ朝夕之レカ保護愛養ヲ怠ラス爲メニ勤勞的習慣ノ養成ニ資シタルコト極メテ多シ且貯蓄日ニ一個若クハ二三個ツ、貯蓄シタルモノカ何時シカ十數圓ニ達シ常ニ小ヲ積ミテ大ニ至ルヲ感得シ趣味ヲ持テツ、飼養シテ蓄積シ不知不識ノ間ニ貯蓄心ノ涵養ヲナシ得タルノ効果ハ没スヘカラ

ス其ノ他育雛飼養等ニヨリテ理科的不識ヲ進メ動物愛好ノ念ヲ起サシメ且ツ高尚ノ娛樂ヲ與ヘタル等其ノ効果尠カラス

碓氷郡秋間村勤儉貯蓄組合同規約

- 第一條 本組合ハ秋間村勤儉貯蓄組合ト稱シ村内ニ居住スルモノヲ以テ組織ス
- 第二條 本組合ハ明治四十三年二月一日ヨリ向十ヶ年間繼續シ勤儉節約ヲ以テ貯蓄ヲナスヲ目的トス

第四條 組合員ハ第二條ノ目的ヲ達スルタメ左ノ各項ヲ確守スルモノトス

- 一、早起晚臥事務ニ勉勵シ休息時ヲ短縮スル事
 - 二、夜間及家業ノ餘暇ニハ副業ニ従事スル事
 - 三、衣服ハ清素ニシ器具ハ儉朴ニスヘキ事
 - 四、酒宴ハ慶事又ハ舊慣アルモノ、外之ヲ開カサル事
 - 五、歳暮年始祝日祭典及吊葬ノ時飲食物其ノ他物品ノ贈答ハ之レヲ廢シ又ハ制限スル事
 - 六、佛事及葬式ニハ一切酒類ヲ用ヒサル事
 - 七、奢侈ニ涉ルヘキ遊興ハ勿論他人ニ出資ヲ煩ハス可キ興業其他之ニ類似ノ事ハ一切之ヲ廢スル事
 - 八、本村ノ公益ニ關係ナキ寄附諸勸化ノ申込ハ一切謝絶スル事
 - 九、夜間等懶惰ノ輩ヲ戒メ華美虚飾ノ弊風ヲ矯ムル事
 - 一〇、諸届書納稅等ハ其期限ヲ確守スル事
 - 一一、集會其他定メラレタル時間ニハ遲參セサル事
- 以上ニ掲ケサルモノト雖モ一家ノ生計ニハ各々其分ヲ守リ節制以テ組合ノ趣旨ニ背カサル様心

掛クヘキ事

第五條 組合員ハ前條勤儉節約ノ結果ヲ定期又ハ臨時ニ貯蓄スルノ義務アルモノトス

第六條 定期貯金ハ左ノ方法ニ依ル

- 一 組合員ハ毎月二十五日迄ニ毎月十錢ヨリ少ナカラサル金額ヲ左ノ等級ニヨリ戸主ヨリ出金ス可シ

定期貯金	一等	五十錢以上	家屋等級	一等ヨリ八等迄
	二等	四十錢以上		九等ヨリ十六等迄
	三等	三十錢以上		十七等ヨリ二十四等迄
	四等	二十錢以上		二十五等ヨリ卅二等迄
	五等	十錢以上		三十三等ヨリ四十等迄

第七條 臨時貯蓄ハ左ノ區別ニヨリ其行事後二十日以内ニ戸主ヨリ出金スヘシ但シ婚姻及縁組分家ハ當事者ノ一方ニ於テ倍額ヲ貯蓄スル場合ノ外ハ當事者双方各別ニ出金スヘク又組長ニ於テ其區世話掛ノ意見ヲ聽キ其出金ヲ減免スルコトヲ得ヘシ

臨時貯蓄	區別	一等	二等	三等	四等	五等
婚縁	戸數割一	九等ヨリ	全九等ヨリ	全十七等ヨリ	全二十五等ヨリ	全三十三等ヨリ
婚姻	八等マテ	十六等マテ	全三十四等マテ	全三十二等マテ	全四十等マテ	
組組	貳圓以上	壹圓以上	八拾錢以上	六拾錢以上	五拾錢以上	
貯出	貳圓以上	壹圓以上	八拾錢以上	六拾錢以上	五拾錢以上	
	壹圓以上	壹圓以上	七拾錢以上	參拾錢以上	拾錢以上	

分家	壹圓以上	七拾錢以上	五拾錢以上	四拾錢以上	參拾錢以上
家督相續	壹圓以上	七拾錢以上	五拾錢以上	四拾錢以上	參拾錢以上
家屋改新築	拾圓以上	七圓以上	五圓以上	參圓以上	貳圓以上
表	壹圓以上	七拾錢以上	五拾錢以上	參拾錢以上	拾錢以上
吊	拾五圓以上	拾圓以上	七圓以上	四圓以上	參圓以上
倉庫改新築	拾五圓以上	拾圓以上	七圓以上	四圓以上	參圓以上

第八條 前條金圓ノ提出ヲ不便トスルモノハ相當ノ現品ヲ以テ之レニ代フルコトヲ得現品ハ組長又ハ世話掛ニ於テ相當ノ時價ヲ以テ便宜之ヲ賣却シ現金ニ代ヘ貯蓄スルモノトス

第十九條 組合員ニシテ左ノ各項ニ當ルモノハ組合ニ於テ之ヲ表彰ス但シ其ノ費用ハ寄附ニヨル

- 一、組合ノタメ特ニ功勞アル者
- 一、能ク本規約ノ趣旨ヲ實行シ他組合員ノ模範トナスヘキ者

規約細目

婚姻ニ關スル事

- 一、婚姻ハ人倫ノ大儀ナレハ舊例ニ依リ身分相應ノ式ヲ舉ルハ妨ケナシト雖凡テ奢侈ヲ制シ虚飾ヲ撤シ且ツ婚姻披露ノ爲メ行フ酒宴ヲ止メ茶菓ヲ饗スルコト、シ身分ニ依リ宴會ニ要スル經費ヲ見積リ之ヲ其市町村小學校基本金ニ寄附スル等ノ方針ヲ取ルヘキコト
- 二、婚姻當日ノ客ハ媒介者及其家主家族ノ親子兄弟姉妹並ニ本分家ノ續柄隣家ニ限ルコト
- 三、嫁又ハ婿ノ土産ハ前項規定セル親族及伯叔父母甥姪並ニ隣佑ノ外贈ラサルコト
- 四、嫁又ハ婿ノ持參荷物ハ華美虚飾ヲ避ケ可成節約ヲ加ヘ身分ニ應シタル必要品ニ限ルヘキコト且ツ本項荷物ハ披露セサルコト

出產ニ關スル事

- 一、子女出產見舞ノ物品贈與ハ家主家族ノ親子兄弟姉妹並ニ本分家ノ續柄及隣家ノ者ノ外贈答ヲ廢スルコト
- 二、産婦若ハ其夫ノ生家ヨリ贈ル處ノ祝ハ産衣ト通テ越ユルヲ得サルコト
- 三、産湯税ニハ産婆及第一項規定ノ親族隣家ノ外招待スルヲ得ス且ツ酒ヲ進ムルコトハ可成之ヲ見合スヘキコト

吊悔ニ關スル事

- 一、死ハ人生哀ノ極ニシテ之ヲ吊フハ素ヨリ其道ナリト雖徒ラニ多衆相會合シテ談笑喧囂スルカ如キコト及飲食ヲ事トスルカ如キ事アル可ラス殊ニ酒ハ全ク之ヲ用ユ可ラサル事
- 二、殉者アリタル時ハ左ノ關係者ノ外吊訪スルヲ得サル事
- 一、家主家族ノ親子兄弟姉妹伯叔父母甥姪從兄弟
- 二、家主家族ト親子兄弟ノ義アルモノ
- 三、本分家及全上ノ續柄
- 四、葬家ノ本家又ハ分家ノ親子兄弟
- 五、葬家ノ親子兄弟ノ本家又ハ分家
- 六、死亡者ト師弟ノ間柄
- 七、學校生徒總代
- 八、町村長區長區長代理者及小字内ノ者
- 三、軍人其他公共の功勞アルモノニシテ別段ノ吊祭ヲナスヘキモノハ其都度協議ノ上之ヲ處置スルコト

- 四、傳染病ニ依リ死亡シタル者アルトキハ隣佑ニ於テ代ヲ吊訪ヲ受ケ警察官ノ指揮ニヨルモノ
- 外死者ノ家ニ立入ラサルコト
- 五、凡テ會葬者ハ親族ノ外哀家ニ立入り響應ヲ受ケサルコト但シ當日酒ヲ進メサル者トス
- 六、初盆念佛ハ死亡者ノ親子兄弟姉妹伯叔父母甥姪及該家族ノ親子兄弟姉妹本分家ノ續柄隣家ノ外贈答ヲナサ、ル事
- 七、一週忌ニハ死亡者ノ親子兄弟姉妹伯叔父母甥姪及該家族ノ親子兄弟姉妹本分家ノ續柄隣家ノ外贈答ヲナサ、ルコト神葬ノ五十日祭年祭等亦全シ

興行其他ニ關スル事

- 一、演劇相撲其他興行ニ方リ如何ナル名義ヲ以テスルモ招狀又ハ添物等ヲ配布シ觀覽ヲ誘導スルヲ得ス若シ他ヨリ之ヲ爲スモノアル時ハ區長ニ於テ取纏メ返還スヘキコト
- 二、興行觀覽ノ際木戸錢又ハ席料等定額ノ外進物若シクハ纏頭等ヲ授受スルヲ得サルコト
- 三、諸興行ハ可成之ヲ止メ勸業學術等ニ關スル有益ノ講談會ハ可成之ヲ行フヘキコト
- 四、富士詣伊勢詣等ノ送迎披露ノ宴會等ハ之ヲ廢スルコト
- 五、盆踊三夜待等ノ陋習ハ漸次之ヲ廢スルコト
- 六、未婚ノ少年若衆ト稱シ團體ヲ組織スルヲ得サル事
- 七、農休等ノ臨時休業ハ可成村内一定シ大祭祝日又ハ日曜ニ於テスル事
- 八、歳末歳始五節句ノ贈答ハ之ヲ全廢スル事
- 九、髮飾履物其他着帶品等各々身分ニ應シ質素ヲ守リ奢侈佳麗ニ涉ル可ラサル事
- 十、衣服ハ虛飾ノ品ヲ着用スヘカラサル事但シ左記ノ場合ハ此限リニ非ス
 - 一、禮服ヲ用ユヘキ神事祭禮ノ式典ニ參與スルトキ

副業ニ關スル事

- 二、婚禮及葬式等ノ制服ヲ着用スヘキトキ
 - 三、其他特ニ禮服ヲ着用スヘキトキ
 - 十一、諸税ノ納入並ニ戶籍上兵事其他該届書等ハ期日ニ後レサル様常ニ注意スルコト
- 男子ハ農事其他主業ニ従事スルヲ得サルノ日若シクハ夜間等ヲ利用シ左記ノ副業ニ従事シ又子弟婦女等ニハ之ヲ手傳ハシメ或ハ必要ニ應シ資ヲ給シテ之ニ努メシムル事但シ土地ノ狀況生業ノ區別ニヨリ之ヲ取捨スルモノトス
- 一、繩蓆草履等ノ藁細工
 - 一、小籠簾漁具ノ竹細工
 - 一、繩帚タワシ等ノ棕梠細工
 - 一、萱茅ノ刈取り炭俵簀等ノ製造
 - 一、栗胡桃ハシバミ菌類並ニ工業ニ供セラル、種實等ノ採拾
 - 一、線絲機械仕立其ノ他ノ賃業
 - 一、家鶏家鴨等ノ飼養
 - 一、牛馬豚兔ノ飼養
 - 一、養蜂養魚

參照

一、蔬菜果樹ヲ邸宅内墻塀ノ邊ニ栽培シ其採取品ヲ精製スルコト

大正六年五月一日現在貯金額一〇、一四一圓四八〇貯金人員五五八人

謹酒會々則(松井田警察分署)

第一條 本會ハ謹慎會ト稱ス

第二條 本會ノ趣旨ハ飲酒ヲ禁スルニアラス慎ムニアリ

第三條 本會ノ目的ハ經濟衛生及紀律ヲ重シ至誠奉公ノ精神ヲ涵養スルニアリ

第四條 松井田警察分署員ハ本會ニ加入スルノ義務ヲ有ス

第五條 本會員ハ冠婚葬儀其他公會ノ外飲酒スルコトヲ得ス

但シ前項ノ場合ト雖モ可成之レヲ避ケ萬止ムヲ得サル場合ハ程度ヲ超ヘサル様注意スルコト

第六條 本會員ハ紀念ノ爲メ毎月末金五拾錢ヲ貯金ス可シ

第七條 前條ノ貯金通帳ハ會長之レヲ保管シ轉免ノ際本人ニ交附スルモノトス

第八條 本會則第五條ニ違背シタルモノハ一回ニ付金五圓ヲ貯蓄スヘシ

但シ前項ノ貯金ハ第六條ノ貯金通帳ニヨリ預金スルモノトス

第九條 本會員ハ職務上ノ懲罰ヲ受ケタル場合ト雖トモ尙本則ヲ適用ス

第十條 第六條第八條ノ貯金ハ第七條ノ場合ノ外如何ナル事情アルモ之レヲ拂戻ス事ヲ得ス

但シ幹事會ノ決議ヲ經タルトキハ此限リニアラス

第十四條 本會則ハ大正四年五月一日ヨリ實行ス

參照

大正六年五月一日現在貯金一〇六圓三〇〇貯蓄人員一二人

勤儉貯蓄規約 (新田郡世良田村出塚勤儉貯蓄組合)

第一章 組合ノ目的及區域

第一條 本組合ハ各自本分ノ業務ヲ勵ミ孜メテ節約ヲ行ヒ其ヲ餘贏ヲ蓄積スルヲ以テ目的トス

第二條 本組合ハ世良田村大字出塚新田ヲ以テ區域トシ御大典記念出塚勤儉貯蓄組合トス

第十七條 組合員ハ住居衣服飲食等ニ要スル費用ヲ節約シ其ノ餘金ヲ貯蓄スルハ勿論冠婚葬祭等

ニ關シ虛禮假飾ニ屬スルモノハ凡テ之ヲ廢止シ專ラ質素儉約ヲナシ其ノ餘金ヲ貯蓄スヘシ

但本項ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十九條 組合員ハ組合經費トシテ一ヶ年貯金高ノ百分ノ一ヲ毎年一圓組合ニ差出スヘシ

第五章 貯蓄法

第二十二條 貯金ハ一口ヲ金五錢トシ毎月十五日限リ必ス通帳ト共ニ區内幹事ニ差出スヘシ

但シ一人ニシテ數口ヲ持ツコトヲ得

第二十三條 組合員ニシテ組合ノ主旨ニ相當スル事由ニ依リ餘贏ヲ得タルトキハ金額ノ多少ニ拘

ラス隨時預入ヲナスコトヲ得

第二十四條 左ノ場合ニ非サレハ之ヲ拂戻スルコトヲ得ス

一、天災事變不慮ノ災害ニ罹リタルトキ

二、冠婚葬祭ニ關スルトキ

三、教育勸業等ニ關シ特費用ヲ要スルトキ

四、寄留又ハ轉籍スルトキ

勤儉貯蓄實施細目

一 神佛ニ關スル事

一、本村春秋二季ノ祭典ハ春季ヲ三月十三日トシ秋季ヲ 月 日トス

一、神佛ニ對スル寄附又ハ講社ノ加入等ハ其人ノ信仰ニ任スト雖自ラ發起トナリ他人ノ勸誘ヲ

爲サ、ルコト又勸誘ニ應セサルコト

一、神佛祭典ニ際シ餘興トシテ諸興行等ハ當分之ヲ廢止シ質素謹肅ヲ旨トシ執行スルコト

一、神佛ノ參詣其ノ他旅行等ノ節留守見舞又ハ土産ノ贈答ハ一切廢止スルコト

二、婚姻其他祝事ニ關スル事

一、當事者ノ服裝ハ可成實用ニ適スルモノヲ使用シ華美ニ涉ラサルコト

一、婚姻ノ式ヲ舉クル場合左ノ項目ニ準據スルコト

1、經費豫算ハ役員會ノ決議額ニヨルコト

2、組合内ノ人員ヲ以テ行フモノトス

但シ近隣者モ含ムコト

3、饗應ノ膳部ハ自作ノ蔬菜物ヲ用フルコト

4、祝酒ハ一人貳合以下ヲ引付スルコト

但シ親族及關係者ハ此限ニ非ス

5、若衆三ツ目祝等ノ習慣ヲ廢スルコト

6、當事者ノ村披露等ハ之ヲ廢スルコト

但シ隣佑親族ハ此限リニ非ス

7、御大儀振舞ト唱フル酒食供ヒサルコト

一、婚姻以外ノ祝等ハ可成質素ヲ旨トシ赤飯又ハ祝餅等ノ配物等ヲ爲サ、ルコト

一、出生見舞初節句ノ際金品又ハ破摩弓羽子板雛人形鯉轆喜浦人形等ノ贈答ヲ廢止スルコト

三、葬儀佛事ノコト

一、葬儀及佛事等ノ場合ノ左ノ項目ニ準據スルコト

1、葬儀ノ經營豫算ハ役員會ノ決議額ニヨリテ營ムコト

2、一般會葬者又ハ見舞人ハ施主ノ家ニテ飲食セサルコト